

日本リハ医学会近畿地方会Newsletter



平成24年度 第2号
2013年1月31日発行

近畿地方会ホームページ
www.kinkireh.com

日本リハビリテーション医学会 近畿地方会事務局
大阪医科大学 総合医学講座 リハビリテーション医学教室 佐浦 隆一

お問合せ先
〒600-8815 京都市下京区中堂寺栗田町93番地 KRP6号館304号
有限会社 セクレタリアット内 近畿地方会事務局
TEL: 075-315-8472 FAX: 075-315-8472 E-mail: office@kinkireh.com



新代表幹事の挨拶

大阪医科大学 総合医学講座
リハビリテーション医学教室
佐浦 隆一

松が明けて小正月を迎え、日本リハビリテーション医学会(以下、リハ医学会)近畿地方会(以下、近畿地方会)会員の皆様には寒中お見舞い申し上げます。また、平素は近畿地方会の運営へのご協力、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

リハ医学会が平成24年4月1日をもって公益社団法人化され、近畿地区でも新しく56名の代議員が決まりました。昨年は近畿地方会幹事会の改選年でしたので、平成24年7月7日の近畿地方会総会にて新代議員も加えて新幹事会(幹事58名、監事2名)が選出され、私が代表幹事を拝命致しました。

平成9年に発足した近畿地方会は、平成22年末に急逝された藤原誠兵庫医科大学名誉教授が初代代表幹事に就任、平成10年1月に第1回近畿地方会が神戸で開催されて以来、平成24年10月までの14年間に33回の学術集会と47回の生涯教育研修会を近畿全域で開催しています。また、近畿地方会ホームページの充実、Newsletter(通巻17号)の発行、査読のある近畿地方会学術誌「リハビリテーション科診療」の発刊(通刊12号)など広報活動、学術活動にも注力しています。このように近畿地方会は多くの幹事、監事の方々のご尽力、会員皆様のご協力により、立派な組織に発展して参りました。この歴史のある近畿地方会の代表幹事の任に着くことは、浅学非才の私にとつて身に余る光栄です。

さて、近畿地方会には地方会組織の改編・体制強化を目的に、教育(大澤傑委員長)、広報(川上寿一委員長)、学術・編集(阿部和夫委員長)、財務・渉外(菅本一臣委員長)の4委員会が設置されていますが、今般各委員会と連携しながら地方会全般にわたる総務を行う

CONTENTS

- ◆新代表幹事の挨拶 1頁
- ◆新幹事の抱負 1-4頁
- ◆専門医会幹事就任の挨拶 4頁
- ◆近畿地方会の地方会誌について 4頁
- ◆第34回日本リハビリテーション医学会
近畿地方会学術集会 会長挨拶 5頁
- ◆第34回近畿地方会開催概要 5頁
- ◆2013年度近畿地方会研修会カレンダー 6頁
- ◆編集後記 6頁

総務委員会(中土保委員長)を新設しました。また、新執行部として菅本一臣先生、中馬孝容先生、中村健先生、中土保先生には副代表幹事就任をお願い致しました。

これまでの地方会事業の経緯を振り返ると、回復期リハ病棟専任医との連携強化、リハ科医の裾野拡大を目的に教育委員会事業として始まった「回復期リハ病棟など、リハ専任医のための研修会」は「回復期リハ病棟など、リハ専任医のための研究会」に発展しリハ科医育成のためのプログラムのひとつとなっています。さらに、予てから懸案であった紙媒体出版物のオンライン化も行われました。いよいよ、本年はリハ医学会設立50周年を迎え、近畿地方会でも50周年記念市民公開講座が教育委員会を中心に企画されています。

近畿地方会の課題は少しずつ解決されてきていますが、赤字基調の財務状況、会員の新規獲得など問題は山積しています。また、2017年からの新専門医制度に対する対応や研修プログラム立案などは近畿地方会で真剣に討議しなければならない喫緊の課題と考えています。

代表幹事として、また、リハ医学会理事として、幹事会メンバーとともに近畿地方会のみならず、リハ医学会発展のために精一杯努力いたしますので、会員の皆様の暖かいご支援とご協力を重ねてお願い申し上げます。

特集

新幹事の抱負

今号と次号に続けて順不同で掲載します。近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。

新幹事の自己紹介です。経歴も専門領域も

それぞれ異なりますが、リハ医学にける熱意は大きく、

近畿地方会の多様性と専門性がアップしました。

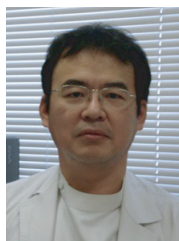
坂井 孝司 大阪大学医学部付属病院リハビリテーション部



このたび日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事に選出して頂き誠にありがとうございます。私は平成5年に大阪大学を卒業後、大阪大学整形外科教室へ入局し股関節外科を専門とし研究と診療に携わって参りました。平成18年7月から現在の職場の助教としてリハビリテーションにも携っており、平成22年に専門医を取得致しました。kinematics/kineticsの臨床研究を含め運動器リハビリテーションに主に携わっておりますが、当院疼痛医療センターにも属しCRPS例に対するリハビリテーションや、平成23年から当院で立ち上げましたがんリハビリテーションにも携わっております。大学病院におけるリハビリテーションに関する最重要課題の一つとして人材の確保が挙げられますが、学生や研修医と接していてもなかなか興味を持ってもらえず、困難な状況に直面しております。今後は日本リハビリテーション医学会ならびに近畿地方会のさらなる発展に微力ながら貢献できればと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。

菅本 一臣 大阪大学医学部附属病院リハ部 大阪大学大学院医学系研究科 運動器バイオマテリアル学

明けましておめでとうございます。この度、日本リハ医学会近畿地方会の幹事に就任いたしました大阪大学の菅本一臣です。リハビリテーションでは様々な身体機能を回復させるという命題は共通で大変シンプルですが、その原疾患は非常に多岐にわたり、そのため治療方法も多様性に富んでいます。我々それを担当する医師はちょうど野球選手のようなもので、与えられたポジションで最適の仕事をこなすことによってチームに貢献できるのでしょうか。私は臨床の傍ら運動器、特に骨関節の動態解析などを研究してきましたが、その目的はやはり骨関節機能を解明しリハビリ治療に役立てようということでした。それによって阪大のリハビリも少しだけですが変わろうとしています。今回近畿の地方会でも貢献できることは微々たるものと思いますが、私に出来る限りのことを懸命にこなし、会員の皆様方に貢献できるように努めたいと思います。リハビリテーション領域は患者数の増加とともにそのニーズは徐々に大きなものとなっています。その一方で産業界からは別に大きな期待を受けています。それにどう答えていくかをみながら考えてぜひ前進していきたいと思っています。

峠 康 和歌山ろうさい病院

このたび近畿地方会の新幹事を務めさせていただくことになりました峠康と申します。私は平成2年に和歌山県立医科大学を卒業、整形外科教室に入局し、主に手外科診療、電気生理学的診断を担当させて頂いておりました。整形外科診療を行っているうちにもっとリハビリテーションを学びたいと考え、平成15年に整形外科吉田宗人教授の指示のもと、リハビリテーション科田島文博教授の下で指導を受ける機会を得て、現在和歌山労災病院にてリハビリテーション科と整形外科の両科で勤務し、上肢機能の改善に対し手術、リハビリなど様々な方法で治療させていただくことを主に行わさせて頂いております。当院は急性期病院であり、そのメリットを生かし整形外科脳神経外科を問わず手術早期からリハビリを提供しQOLの向上に努力しておりますが、悪戦苦闘を続けている毎日です。

近畿地方会の更なる発展に微力ではありますが尽力したいと考えておりますので、皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

長谷 公隆 関西医科大学附属枚方病院・リハビリテーション科

平成24年4月1日付にて、関西医科大学附属枚方病院整形外科講座・リハビリテーション科診療教授を拝命し、このたび、近畿地方会幹事に就任いたしました。前任地にて関東地方会幹事委員を務めさせて頂いておりましたが、近畿地方会では、幹事会のもとに委員会が組織されて機能しているところが大きな相違点かと存じます。幹事会では財務委員会に所属させて頂くこととなりましたので、微力ではございますがその運営に寄与して参りたい所存です。また、平成26年度には教育研修会を担当させて頂く予定でございますので、ご支援ご指導をいただければ幸いに存じます。平成25年度より関西医科大学は、大学キャンパスを枚方病院隣接地に移転・統合して、臨床・教育・研究を推し進めていくこととなります。大阪北河内地域におけるリハビリテーション医療の担い手の一員として、リハビリテーション医学の卒前・卒後教育ならびに臨床研究等を通じた社会貢献に力を尽くして参りたいと思います。大阪に赴任して日も浅く、皆様にはご迷惑をお掛けすることも多々あるかと存じますが、どうぞよろしくご指導ご鞭撻のほどをお願い申し上げます。

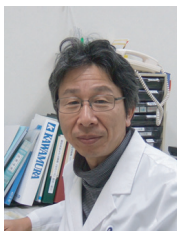
村田 顕也 和歌山県立医科大学神経内科学講座

この度、日本リハビリテーション医学会近畿地方会の幹事を務めさせていただくことになりました和歌山県立医科大学の村田顕也と申します。私は昭和63年に奈良県立医科大学神経内科学講座に入局いたしました。当時神経内科の助教授で、リハビリテーション部の副部長でいらした真野行生先生からphysical medicineを通じてリハビリテーション医学の基礎を勉強させて頂きました。私にとって、リハビリテーション医学は、診療を行うにあたり、必須の学問であり、神経疾患以外にも様々な症例を経験させて頂き、臨床認定医、専門医の資格を取得することができました。

私は、現在、神経内科学講座に所属し、臨床神経学に従事しておりますが、リハビリテーション医学講座の田島文博教授のご指導のもと、神経・筋疾患のリハビリテーションも勉強させて頂いております。また、和歌山神経難病ネットワークの事務局として、県下の神経難病患者の在宅医療の推進に努めております。これからは、和歌山県のリハビリテーション医学の発展並びに近畿地方会の更なる充実にむけて、微力ではありますが努力したいと考えております。どうか、諸先生方のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

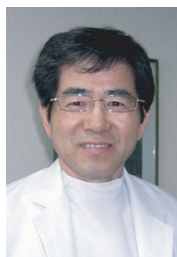
久保 俊一 京都府立医科大学大学院医学研究科運動器機能再生外科学(整形外科教室)

私は、現在、日本リハビリテーション医学会で監事を務めさせていただくとともに、京都府立医科大学附属病院においてはリハビリテーション部部長を兼務しております。平成14年に教室を主宰して以来、学部教育、卒後教育、大学院教育、スタッフに対するfaculty developmentなど人材育成にはとくに力を注いでまいりました。超高齢社会を迎え、健康寿命を延伸し、国民に幅広く質の高い生活を提供するのに大切な役割を果たしているリハビリテーション医療の質を将来にわたって担保するために、人材育成、市民への啓発活動、さらに行政への働きかけなども学会の大切な役目です。疾患別すなわち縦割りではなく、障害別すなわち横断的であるという特徴から、それぞれの疾患を扱う各科と連携しリハビリテーションという観点で束ねていくことは、臨床においても研究においても不可欠です。私が理事を務めている日本整形外科学会を始めとして関連他学会との関係を密にし、情報を共有することで、本学会の発展に寄与すると共に、将来を見据えて、近畿地区における教育と診療の向上に努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

柴田 徹 森之宮病院

このたび、日本リハビリテーション医学会近畿地方会の幹事を拝任いたしました森之宮病院の柴田です。委員といたしましては編集委員を担当することになりました。わたしは、昭和59年に大阪大学整形外科に入局、平成7年より小児整形外科を専門とし、平成12年よりボバース記念病院で、障害児を中心とした小児整形外科およびリハビリテーションに取り組んできました。平成18年より森之宮病院で勤務していますが、回復期リハビリテーション病棟協会医療安全委員として、また最近では、ボツリヌス毒素療法を通じて成人のリハビリテーションにも取り組んでいます。個人的にベトナムのCBR(地域に根ざしたリハビリテーション community based rehabilitation)活動支援を行っており、リハビリテーション分野での国際協力に強い関心を持っています。

医学としてのリハビリテーションにおいて、研究は厳格な科学性が要求されなければなりません。一方で現場では、教育・家庭環境・精神・心理・福祉・社会システムなど、多分野にわたる個別の問題も重要です。リハビリテーションに携わる医師はこの2面性を理解しながら患者の健やかな生活を支援してほしい、近畿地方会の幹事として少しでもそのような医師の育成に尽力したいと思っています。よろしくお願いします。

富田 恭治 医療法人平成記念病院

昨年リハビリテーション医学会近畿地方会の幹事に加えて頂きました平成記念病院(樫原市)の富田と申します。元来は整形外科医で特に肩関節外科の専門医として永年診療に従事しております。私がリハビリテーションと関わりを持つきっかけとなったのは、平成3年に肩関節の関節固有感覚の研究を始めたことでした。以来毎年のように運動器のリハビリテーションに関する内・外での学会発表を行い、平成17年にはリハビリテーション専門医を取得しました。現在整形外科医とリハビリテーション医の二足の草鞋で勤務しております。

日本は世界でも類を見ない超高齢者社会を迎え、一人でも自立した高齢者を増やすことが社会に対する医療従事者の責務だと思います、その意味でリハビリテーションの役割は今後益々重要となりまた発展させるべき医療分野と感じております。元々は整形外科医であるため、どうしても脳血管疾患や神経内科疾患に経験の乏しい所があり、未だ研鑽の毎日ですが、リハビリテーションの奥の深さを実感しています。また立場上、診療だけでなく回復期リハビリ病棟の運営や医療経営にも無関心では居られません、昨今の医療制度の変化にはその対応に追われています。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

井上 重洋 京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院

平成24年から日本リハビリテーション医学会近畿地方会の幹事をしています井上重洋です。私は昭和57年に京都府立医科大学整形外科科学教室に入局し、下肢関節障害を専門にしてきました。平成16年から京都府立心身障害者福祉センター附属リハビリテーション病院に勤務し、平成18年から同院の院長となり、運動器障害と共に脳血管障害のリハビリテーションを担当しています。

当院の特徴は回復期リハビリテーション病棟を標榜しておらず15対1の一般病棟として運営していることと思います。そのため比較的自由にリハビリ希望の患者さんの受け入れが可能で、本人に意欲があり、改善の見込みがある患者さんなら受傷時期にかかわらず入院リハビリが可能です。今後もこの利点をいかして他院で入院を断られた患者さんにもリハビリを積極的に行っていくつもりです。また高次脳機能障害に対する京都府のリハビリ拠点病院として医療リハビリ訓練、生活訓練・就労訓練施設の整備および専門外来の設置に尽力をしていきます。

角谷 直彦 済生会有田病院

この度は、日本リハビリテーション医学会近畿地方会幹事を務めさせていただくことになりました角谷です。私は、昭和61年東海大学を卒業後にリハビリテーション医学講座に入局致しました。当時はリハビリテーション医学講座がある数少ない大学病院でしたので恩師の良きアドバイスをいただき誘われるまま飛び込んだ次第です。リハビリ研修は学内外5年間で一通り終えましたが、診療行為、精神的な不安が募り消化不良を生じたこともあり。大学病院では脳卒中、脊髄損傷、骨関節疾患、小児疾患を担当させていただき機能回復がいかに難しいかを痛感いたしました。平成16年4月済生会有田病院に勤務となりリハビリテーション科を標榜しました。有田診療圏は、高齢者が多く山間部など地理的にも生活条件が厳しく地域に応じたリハビリテーションを必要としています。平成19年には和歌山県介護予防室から地域リハビリテーション広域センターの事業指定を受けまして地域住民の方々に生き生きとした生活が送れるように行政連携、地域福祉サービスの提供などリハビリテーション活動を行っております。今後とも皆様のご指導、御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

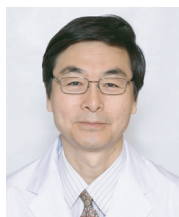
真多 俊博 康生会武田病院整形外科

このたび、幹事に就任いたしました真多俊博です。S60年、京都大学卒業の整形外科医で、整形外科外来と手術が仕事の中心です。リハビリテーションの重要性は、整形外科の初心者の頃に感じて、卒後数年で日本リハビリテーション医学会に入会しています。現在は、リハビリテーション科長も兼任しています。スタッフのPT,OTたちの知識の深さには驚くことがしばしばです。

その反面、手指のリハビリを処方した時には、肩手候症候群の予防までリハビリを進めてくれる場合と、受傷側の局所のみをしっかりと行ってくれる場合があったりと、これはひとつの例ですがリハビリ担当者の温度差を感じることもあります。

一方では、患者さんが、リハビリ室で可動域訓練や、筋力訓練、歩行訓練などを受けても、リハビリ室を一步出してしまうと自主訓練をする姿を見ることは極希で、真剣にリハビリをするという考えはまったく持っていないのか?と疑ってしまうこともあります。

現状では、臨床医師にとどまらず、PT・OTの温度差の克服、患者さんへの自主リハビリの啓蒙など裾野を広く、山を高くしたいと思っています。皆さんよろしくお願いいたします。

堀井 基行 京都府立医科大学 附属病院リハ部 整形外科科学教室

この度は、近畿地方会幹事会の仲間入りをさせていただきありがとうございます。私は、1983年の京府医大卒業後、整形外科科学教室に入局いたしました。関節外科を中心とした整形外科臨床とともに、京都府立心障センター附属リハ病院での脊髄損傷や切断者のリハ、更正相談所での障害認定業務や補装具の処方・適合判定、京都地域医療学際研究所附属病院副院長兼リハ部部長として高齢者やスポーツ障害のリハ等の実践を経験し、リハ医学の重要性を痛感しております。現在は京都府立医科大学附属病院リハ部副部長として、急性期リハの実践とともにパラメディカルスタッフや学生教育にも取り組んでおります。健康寿命延伸や多様化するスポーツ活動などリハ医療への大きな期待に答えられるよう、地域での活動を通して少しでもお役にたちたく考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本リハビリテーション医学会 専門医会幹事就任のご挨拶

和歌山県立医科大学リハビリテーション医学
中村 健

平成24年11月に行われた日本リハビリテーション医学会専門医会（以下、専門医会）幹事選挙によりご選出いただき、このたび専門医会幹事を務めさせて頂く事となりました。今回の幹事選挙では、近畿地方会の皆様方には多大なご声援、ご支援をいただき大変感謝しております。現在、近畿地方会副代表幹事も務めさせていただいており、近畿地方会としっかり連携をとりながら専門医会幹事としての役割を果たしていきたいと考えております。

専門医会は、平成18年に日本リハビリテーション（以下リハ）医学会の組織として設立されました。設立の目的には、「専門医会は、リハ科専門医の資質向上を図り、関係する研究・研修活動に積極的に取り組み、リハ医学・医療の発展と普及に寄与することを目的とする。」と掲げられています。つまり、専門医会には、専門医が連携を取りながら学術集会や研修会を通してリハ医療の質を高め、またリハ医学に貢献する基礎研究、臨床研究を推進していく事が求められています。さらに、リハ医学・医療を全国に普及させて行く事も重要な役割となっております。このためには、各地方会との協力も重要になります。私は、近畿地方会よりの唯一

の専門医会幹事でありますので、全国の専門医との交流を通して近畿地方のリハ医学・医療の発展と普及に貢献させて頂ければと考えております。しかし、これには近畿地方会の皆様方のご協力なくして行う事は出来ません。皆様方のご協力、ご指導のほど宜しくお願い致します。

専門医会学術集会開催期間中の11月18日に、新専門医幹事において第1回目の幹事会が開催されました。この中で、幹事会が進めているSIG (Special Interest Group) 活動の1つであるリハ医学基礎研究SIGの担当幹事を引き受けさせて頂く事となりました。私は、これまでリハ医学の中では、基礎研究がそれほど重要視されていなかった面もあるのではないかと感じております。しかし、基礎研究は、医学の発展、医療の質の向上のためには必要不可欠であることは言うまでもありません。当然、リハ医学・医療においても同様です。今後、リハに関連した基礎研究を推進するための活動もしていきたいと考えております。近畿地方会の皆様も基礎研究をしている、していないに関わらず基礎研究に興味のある方は、基礎研究SIGにご参加して頂き、基礎研究の推進にお力を貸して頂ければ幸いです。

今回、10名の新専門医幹事が選出されましたが、私は、専門医会幹事としては新人です。このため、不慣れな点もあり上手くいかないところもあるかと思います。ただ、新しい視点から私が果たすべき役割が多くあると考えております。専門医会幹事として、精一杯頑張りたいと思いますので、今後ともご支援のほど宜しくお願い致します。

近畿地方会誌について

『リハビリテーション科診療近畿地方会誌』編集委員長
阿部 和夫
大阪保健医療大学

近畿地方会の発行する学術誌に、『リハビリテーション科診療近畿地方会誌』があります。今年も12月になってようやく最終原稿が完成し、現時点で、校正作業に取り組んでいます。学会の地方会が発行する学術誌は、あまり例がありませんが、(1)経験の少ない先生が論文の書き方を学習する手伝いをする、(2)論文執筆の時間が取れない先生の手助けをする、など、地方会という小さなまとまりでのみ可能になるサービスの提供を目的としています。本会誌は、医学中央雑誌(医中誌1347-3956)にも登録されており、“業績”にもなります。しかし、筆頭著者としての論文がリハビリテーション科専門医受験の必要要件から外されたためか、他学会でも問題となっている和文論文誌への投稿数が減少していることと同じ現象なのか、論文の募集には、苦勞しています。

査読システムがあることが、“業績”としての条件ですが、他の学術誌では、担当の査読者が真摯な態度で論文を読んでいない、査読意見に適切に対応しているにもかかわらず明確な理由なしに掲載を拒否された、などの不満を聞くことがあります。欧文誌の中には、査読過程に不満がある場合には、公開で査読過程を検証し、不適切な査読者を排除することも行われています。教育的な目的を持つ本地方会誌では、寄せられた原稿に親切に対応することで、このような不満が減るように努力をしています。しかし、投稿者の先生も、共著者と協力をして論文の体裁を整える努力をし、査読を十分行えるように時間的な余裕を持って投稿していただくようお願いいたします。また、症例報告が軽視されている傾向が、学術誌では増えてきており、症例を投稿する機会がないという意見もあります。症例報告を正確に行うためには、論文検索をして精読を行う必要があり、症例報告を行うことで医師として基本的な技術を身につけることができます。本地方会誌では、様々な型式での症例報告も歓迎します。

独自の学術誌を発行するという近畿地方会のすばらしい伝統を守っていくためにも、講演された内容、教育的なリハビリテーションについての報告、比較的まれな疾患のリハビリテーション経験、リハビリテーションへの提言、などの原稿をお寄せ下さい。

第34回日本リハビリテーション医学会 近畿地方会学術集会および専門医・認定臨床医 生涯教育研修会開催にあたって

第34回リハ医学会近畿地方会学術集会

会長 逢坂 悟郎

兵庫県立リハビリテーションセンター
西播磨病院リハビリテーション科

2013年3月9日(土曜日)に第34回日本リハビリテーション医学会近畿地方会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会を兵庫県神戸市にある生田文化会館にて開催させていただきます。今回の生涯教育研修会では脳卒中、神経筋疾患、関節リウマチをテーマに3名の講師の先生方をお招きする予定です。国立循環器

病研究センター脳神経内科部長 長束一行先生には「脳卒中地域連携と脳卒中ノート」について、兵庫医療大学リハビリテーション学部教授・大学院医療科学研究科長 野崎園子先生には「神経筋疾患の摂食嚥下障害(対策と最近の話題)」について、神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域准教授 三浦靖史先生には「最新リウマチ治療戦略とリハビリテーション」についてご講演を賜ることになっています。いずれの講演におきましても、今後のリハビリテーション科診療・研究の中で役に立つお話を伺えると確信しています。また、午前中に一般演題の発表も予定しています。多数の先生方にお越しいただきまして、活発な議論ができることを切に願っております。皆様、よろしくお願いいたします。

第34回日本リハビリテーション医学会近畿地方会および 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年**3月9日**(土曜日)
9:30～16:00

会場：生田文化会館
兵庫県神戸市中央区中山手通6丁目1-40
Tel. 078-382-0861

会長：逢坂 悟郎
兵庫県立リハビリテーションセンター
西播磨病院リハビリテーション科

1. 一般演題(認定単位：10単位予定)

※一般演題はすでに2013年1月15日に締め切りました。
発表形式：Mac PCの方は必ずご自身のPCをお持ちください。
Windowsの方はPCでもUSBメモリーのみでも受付可能です
(会場にはパワーポイント2003のパソコンを用意しています。
その他のバージョンの方はPCを持参ください)。

2. 教育講演(認定単位：30単位予定)

1. 「脳卒中地域連携と脳卒中ノート」

国立循環器病研究センター脳神経内科部長 長束 一行 先生

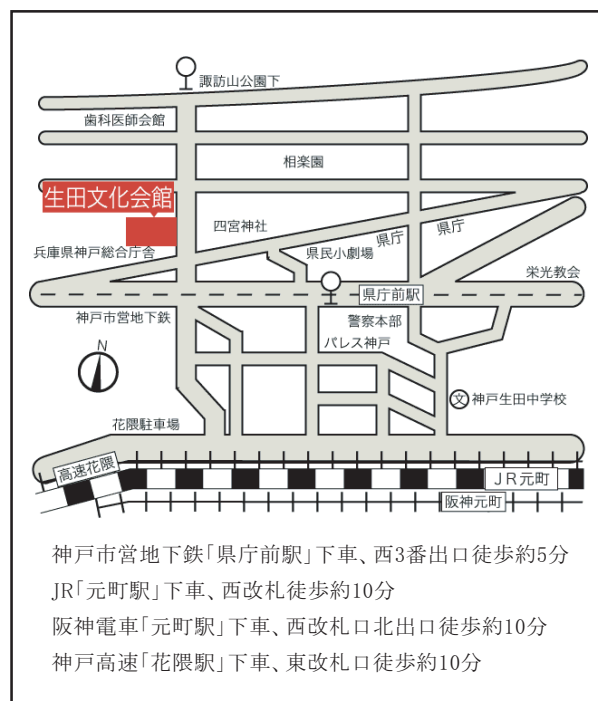
2. 「神経筋疾患の摂食嚥下障害(対策と最近の話題)」

兵庫医療大学リハビリテーション学部教授・大学院医療科学研究科長 野崎 園子 先生

3. 「最新リウマチ治療戦略とリハビリテーション」

神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域准教授 三浦 靖史 先生

参加費：2000円 受講費：3000円(30単位一括) 事前申し込み：不要



お問い合わせ先 兵庫県立リハビリテーションセンター西播磨病院リハビリテーション科
電話：0791-58-1050 E-mail：ohsakagoro@nifty.com

2013年度近畿地方会研修会カレンダー

第34回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年3月9日(土) 9:30～16:00 会場：生田文化会館 大ホール 神戸市中央区中山手通6丁目1-40
神戸市営地下鉄「県庁前駅」下車、西3番出口徒歩約5分 JR「元町駅」下車、西改札徒歩約10分

演題：1. 「脳卒中地域連携と脳卒中ノート」

国立循環器病研究センター 脳神経内科部長 長束 一行 先生

2. 「神経筋疾患の摂食嚥下障害（対策と最近の話題）」

兵庫医療大学リハビリテーション学部 教授・大学院 医療科学研究科長 野崎 園子 先生

3. 「最新リウマチ治療戦略とリハビリテーション」

神戸大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学領域 准教授 三浦 靖史 先生

担当幹事：逢坂 悟郎(兵庫県立リハビリテーション西播磨病院)

第48回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年6月1日(土) 13:30～16:50 会場：神戸大学医学部会館シスメックスホール
担当幹事：三浦 靖史(神戸大学 大学院保健学研究科)

第49回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年6月29日(土) 大阪府で開催予定
担当幹事：矢倉 一(森之宮病院診療部リハビリテーション科)

第35回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年9月 大阪府で開催予定
担当幹事：平林 伸治(大阪労災病院リハビリテーション科)

第50回専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年11月 大阪府で開催予定
担当幹事：小口 健(白浜はまゆう病院リハビリテーションセンター)

日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年11月 兵庫県で開催予定

日本リハ医学会近畿地方会 専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2013年11月 京都府で開催予定

第36回学術集会および専門医・認定臨床医生涯教育研修会

日時：2014年2～3月 京都府で開催予定
幹事：門 祐輔(京都民医連第二中央病院)

編集後記

キーボードでもよく打つピリオド(・, period)ですが、辞書を見ると「終止符」の意味は5番目です。1番には「(生涯・歴史などの) 期間, 時期; 時代」となっていました(プログレッシブ英和中辞典)。さらに類義語にはepochがあり、こちらには「新時代(の幕明け), 新紀元, 新世紀」などの意味もあったりします。年が巡ってなどともいうな、

と思うと、ギリシャ語 períodos (peri- 回って + odos 途(みち)) だそうですから、中島みゆきの歌や私の頭の中だけで回っているわけではなさそうです。今号は、多くの先生方からのご挨拶をいただきました。今号では掲載しきれない分もございますので、編集事情を御勘案いただきどうかご容赦いただきますようお願いいたします。
(川上寿一)